

おひさま サタダ

2012



vol.110

3

はいっ ポーズ!

《北見地区・北陽》

仲山美知さんと晴陽くん

(紹介は2ページです)

特集

- TPP交渉参加”断固阻止”を オホーツク総決起集会に 1100人参加
- 東日本大震災から1年、災害多発時代を生き残るのは
- JAきたみらい青年部・女性部・プレミズ 第8回通常総会を終える



暖かい陽気に 誘われて

季節の薫り



「春到来か!」と感じさせてくれるほどの暖かさだった2月22日。

この陽気に誘われたキタキツネも、真白な雪に覆われた畑に座り、気持ち良さそうに目を細め、日向ぼっこをしている姿がとても愛らしく感じた。

彼の顔をじっくり眺め、何となく「今日は暖かいね!」、「なに探してるの?」とつぶやいたら、「クーン」と鳴いた声が微かに聞こえた。きっと、それは「食べ物を見つけているの」と語りかけているかのように感じた。

一方で、農作物に大きな被害を与えている野生動物の有害鳥獣が取り沙汰されている今、侵入防護柵の設置や罠捕獲、駆除など様々な対策が取り組まれていることを思い浮かべ、「彼らが人里まで下りて来る環境を作ったのは誰だろう」と考えた。

「自然と共生」という言葉がある。農業も自然と上手に向き合い、動物も人間と上手に向き合い、共に生きて行かなければならないと自問自答していると、キタキツネはゆっくりと腰を上げ、静かに山へと向かって行く後姿は、少し寂しげに見えた。



【写真は2月22日、午前11時49分に訓子府町駒里のホクレン畜産技術研究所付近で撮影したものです。なお、右下の写真は新雪に描かれたキタキツネの足跡です】

表紙紹介

元気で強く、そして優しい子に

約束の午後1時半、仲山さん宅に着くと、お昼寝を終えた晴陽くんが、何かを語り掛けるような言葉と満面の笑顔で迎えてくれました。

1歳を過ぎたばかりの晴陽くんの体重は約10kgで、立ち歩きもバッチリです。1歳の誕生日には1kgのお餅を背負い、転ぶことなく元気に歩いてしまったとのこと。

お父さんとお母さんにお話を伺っている時も、おばあちゃんが出てくれた色とりどりのボールで遊んでいました。また、テレビに子供向けの番組が入ると画面の子どもたちといっしょになって体を揺すって遊ぶようです。

ホッペがプリンプリンの晴陽くんが、テレビに向かって踊っている後姿は、きつと「可愛い」と勝手に想像してしまうほどです。

そんな晴陽くんにお父さんは「元気で強い子に」、お母さんは「元気で優しい子に」と今後の成長を願っていました。

表紙は、撮影中に晴陽くんが急に大きなくしゃみをして、みんなが大爆笑している際に、シャッターを押した中の1枚の写真です。



【ご家族紹介】

左から～お父さんの優一さん(27)、お母さんの美知さん(33)、おばあちゃんの光子さん(56)と長男の晴陽くん(1)、おじいちゃんの一芳さん(57)。

仲山さんでは、水稻、秋小麦、てん菜、馬鈴薯(加工含む)などを47・5%作付けしています。



もくじ CONTENTS

特集①

地域経済・社会の崩壊に繋がる
TPP交渉参加「断固阻止」を
訴えホーリック総決起集会に1,100人参加

4

特集②

東日本大震災から1年
災害多発時代を生き残るには？

6

特集③

JAきたみらい青年部・女性部・フレミズ
第8回通常総代会を終える

8

○季節の薫り……………2

○表紙紹介……………2
「元気で強く、そして優しい子に」

○JAきたみらい
ホットライン東西南北……………14

○ほのぼのの広場……………18

・きたみらいのホープさん
・マイティスト

「エンデューロ」

・思い出の写真
・私のパートナー

・わが家のアイドル

・大きくなったら

・おらがまちのおしどり夫婦

・まちがいがし

・読者の声

○青年女性ネットワーク……………22

○JAからのお知らせ……………24

○おひさまサラダクッキング……………30

「鶏肉と野菜のトマトスープ」

「春野菜のパスタ」

地域経済・社会の崩壊に繋がる TPP交渉参加“断固阻止”を

オホーツク総決起集会に1100人参加

オホーツク農協組合長会は、オホーツク商工会議所協議会や管内消費者協会連合会、道医師会北見ブロックなど12団体と共催し、環太平洋経済連携協定（TPP）交渉参加阻止を訴えるオホーツク総決起集会を開きましたので、その内容を紹介します。

子どもたちの
未来のために

オホーツク農業協同組合長会は2月26日、環太平洋経済連携協定（TPP）交渉参加の阻止に向け、「TPP交渉参加断固阻止！オホーツク総決起集会」を開きました。

会場の網走市民会館大ホールには農業者や関係機関、共催・後援団体などから約1100人が集まり、当JAからも役員や青年部・女性部



▲主催者挨拶を行うオホーツク農協組合長会の佐藤正昭会長



▲交渉参加阻止に向け、プラカードや横断幕を作成して参加したJAきたみらい

などを中心に約190人が参加しました。

主催者を代表して、佐藤正昭会長（JAこしみず組合長）は「TPPは農業だけでなく国の形を変える問題。我々は、この故郷を築いた先人の方々のためにもこの大地を守らなければならぬ」と話し、「今、国がなすべきことはTPP参加ではなく、東日本大震災・原発事故の復興である」と呼び掛けました。

オホーツク総合振興局の有利利典局長の激励挨拶、北見地区農民連盟の川崎伸一会長の情勢報告に続き、共催団体である、オホーツク圏活性化期成会、オホーツク商工会議所協議会、網走管内消費者協会連合会からの代表者3名による決意表明が行われました。



▲TPP交渉参加阻止を目指して、1,100人が集結した網走市民会館



▲特別決議案を拍手で賛成する当JAの組合員の皆さん

管内の市町村長と議長でつくるオホーツク圏活性化期成会の水谷洋一会長（網走市長）は「十分な情報提供が行われておらず、どの分野にどの程度の影響があるか分かっていない」と述べ、さらに「仮に締結されると、農業分野だけでなく地域の様々な分野で甚大な影響を及ぼすことが懸念される。今後国に対し強く反対を働き掛け、共に行動する」と力強く決意表明を行いました。

続いて、来賓の武部勤衆議院議員は「前のめり状態で進むと日本は崩壊する。会場にいる皆さんが反対に向けて、一人でも多くの方に語りかけることが重要」と訴えました。

同じく来賓の松木謙公衆議院議員は、「TPP交渉参加は、食料自給率を向上させるという政権与党の当初の方針に大きく反する」と話し、「交渉阻止に向けて共に頑張ろう」と激励の言葉が述べられました。

オホーツクJA青年部協議会の中山和彦会長が「地域の暮らしと生活を守り、地域経済・社会の持続的発展を目指すため、関係機関一丸となってTPP交渉への参加断固阻止向け運動を展開する」と特別決議案を読み上げ、満場の拍手をもって採択されました。

また、JA青年部、JA女性部によって、「地域の農業者として、子を持つ親として、将来を担う子供たちに安全・安心な食べ物を食べさせて

あげたい」「子どもたちの未来のために頑張ろう！」と力強いメッセージが送られました。

最後に、オホーツクJA女性協議会の馬淵陽子会長のガンバロウ三唱で、参加者はTPP交渉参加阻止に向けて士気を高めました。

▲特別決議案を読み上げるオホーツクJA青年部協議会の中山和彦会長

▼JA青年部と女性部が立ち上がり「子供たちの未来のために」とメッセージを送りました



「TPPよく知って」と参加阻止へ市民に啓発活動

JAきたみらいは2月11日と12日の2日間、JA北海道中央会北見支所やホクレン北見支所などの連合会と共に、第42回北見冬まつりイベント会場で、環太平洋経済連携協定（TPP）交渉参加阻止に向けた啓発活動を行いました。

TPPに参加すれば、日常生活や地域経済に大きな影響を及ぼすことを市民により深く理解してもらおうと行われたものです。

同JAや連合会職員が会場に訪れた市民に「もっと考えよう！TPPのこと」と書かれたチラシといっしょに「オニオンスープ」や「てん菜糖飴」を配布。食の安全性や医療、雇用問題など地域経済が崩壊する危険性などを説明しました。

また、オホーツク農協組合長会が作成したポスター（左写真～84センチ×59センチ）を、当JA管内の行政、農業関係団体、商工会、消費者協会、建設、輸送など33団体を訪問し、TPP交渉参加阻止に向けた説明、さらに理解を求め、事務所などに掲示していただく要請活動も行いました。

◀冬まつり会場で啓発活動するJA道中央会北見支所職員



▲農業関係団体や企業などの事務所に掲示されているポスター



東日本大震災から1年

災害多発時代を 生き残るには？

撮影：和田隆昌

日本国民を脅かし、深い悲しみに崩れた「東日本大震災」から1年が経ちました。この震災は、その後の原発事故の問題も含め、被災地はもちろん日本全体の経済や生活に影響を及ぼしています。

この震災はどのような災害だったのか、現地では何が起きていたのかを改めて検証し、学ぶことをお伝えできればと思います。

(災害危機管理アドバイザー 和田 隆昌)

東日本大震災を振り返る

何が起こき、日本はこの後どうなるのか

あのとき、何が起こったのか。実際、地震の数日前から宮城県沖では地震が多発していました。

震源地は過去多くの津波地震を発生させている場所。明治三陸地震（1896年）では、東日本大震災とほぼ同じ死者・行方不明者2万人、昭和に起きた地震（1933年）で発生した津波でも約3000人の死者・行方不明者が出ています。そして多くの地震学者がこの30年での巨大地震の発生確立をほぼ100%に近い数字で予測していた場所でもあります。当然、気象庁も政府機関も警戒していましたし、地元でも十分な

対策はなされていたはずでした。

では、なぜ「分かっていた」場所であったにもかかわらず、これだけの被害が生じてしまったのか。

被害は決して「想定外」ではなかったことは、すでに明らかになっています。10mを超える津波が来るかもしれないことは分かっていた、2度3度続けてやって来ることは分かっていた、そこに家を建てたら津波が来れば流されることも分かっていた。歴史は繰り返され、悲劇は何度も繰り返される。今こそ「どうしたら命を救えるのか」を真剣に議論しなければならぬときなのです。

東日本大震災と同等規模の地震は再度「必ず」やって来ます。統計上、日本周辺は地震活動の多発時期に入ったといわれています。内陸部に住む人も他人事ではありません。

日本国に住んでいる以上、地震被害を受けない場所はありません。まず、自分の住む場所にどんなリスクがあるのかを、もう

人はなぜ

「自分だけは大丈夫」と思うのか

避難せずに被災してしまう理由

大きな自然災害の警報を耳にしたとき、人間は「自分だけは大丈夫」「大したことはない」など、まったく根拠のない意識を持つ傾向があります。そのため市役所などの自治体が発災無線で避難を促したとしても、一向に避難行動に入らないという結果になります。

自治体が発する「避難勧告」に先

一度見直すことから始めましょう。

んじて「自主避難」するような例は、非常にまれです。それは自分にとって嫌なこと、面倒なことを意識から排除しようとする心理が働くからなのです。これは高齢者に多くありますが、津波警報が何度も発せられ、過去被害を受けなかった記憶が、自分に都合良く残ってしまったということも



▲何度も繰り返される悲劇。私たちに災害から逃れるすべはないのでしょうか。今こそ活発な議論がなされるべきです。

今日からできる家庭の災害対策

1

地方自治体などの窓口で自分の住む地域のハザードマップを手に入れる。

ハザードマップは多くの自治体で入手可能です。自分の住む地域の危険な場所、自宅と避難場所との位置関係などを確認することができます。

2

自分の住む家屋の耐震強度を調べる。

特に1981年5月以前の建築物ですと、強度が著しく劣っている可能性があります。自治体から耐震改修の補助金が出る場合がありますので問い合わせてみましょう。

3

寝室の安全性を高める。

寝室にある家具は全て危険な凶器になり得ます。重量のある家具は必ず固定し、少なくとも自分に倒れてこない位置に移しましょう。夜間の停電に備えて、停電時に点灯する「保安灯」を寝室に用意しておくことで非難時に助かります。

4

避難経路を実際に歩いて確かめる。

自宅付近に災害(津波・火災)の危機が迫ったと感じたなら、事前に確かめておいた、自治体の指定する避難場所へすぐに移動します。年に1度は家族揃って避難場所への経路を確かめることが必要です。

冒頭に記した通り、自然災害による被害には必ず「その場所」に応じたりスクの高低が存在します。東日本大震災では、約2万人もの犠牲者が出ましたが、その多くは津波による犠牲者です。建物の倒壊による死亡事例は東北の被災地ではほとんど見られません。建築基準法の度重なる改正により、比較的新しい家屋の地震による全壊の可能性は極めて低いのです。その優先順に①自分の住む地域の災害危

険度を把握すること。②家の安全性(耐震強度)を確かめること。③寝室の安全性を高めること。④安全な場所への避難経路を把握し、実際に確かめること、などがあります。地震があっても、「津波の届かない」「安全な家」に住み、後は火災にさえ巻き込まれなければ、生命の危機に直面する可能性は非常に少ないといえます。「地震そのもので死ぬことはまずない」のですから「地震による2次災害に遭わないこと」

命を守るための知恵 今日からできる家庭の災害対策

影響したようです。さらに「周囲が動くまで何もしない」「近くに人がいるから大丈夫」と、集団行動を取ろうとする傾向もあります。「隣の家の人がまだ避難していないので、自分が先に逃げるのは恥ずかしかった」などの声もありま

した。災害時には、たとえ無駄になったとしても「早めの避難」で身を守るべきです。自分が避難することで周囲の避難行動を促し、より多くの命が救われるのだという意識に切り替えましょう。

イラスト：服部新一郎



和田 隆昌(わだ たかまさ)

災害危機管理アドバイザー。感染症により生死をさまよったことをきっかけに「防災士」の資格を取り、災害や危機管理問題に積極的に取り組む。アウトドア関連雑誌の編集者も歴任。長年のアウトドア活動から、サバイバル術も得意。著書に「地震・津波の新常識」(ブティック社)など多数。全国での講演会の他、メディア出演も多い。

こそ、最も必要な地震対策なのです。災害対策というと、水や食料の備蓄さえすればいいかと思いがちですが、それらは「命を守る」ことにはつな

被災者は誰に助けられたのか 生死を決めたのは「ご近所付き合ひ」

自分の生活圏に住む人との「つながり」だけが、生死の境にある自分を救う、唯一の手段だといってもいいでしょう。本当に基本的なことですが、近所の人と日頃の「あいさつ」や「気遣い」をどれだけしているか、また地域で「被災者」になり得る人をどれだけ守ってあげられるかが、地震災害の被災者を減らすために最も有効な手段といえるのです。

がありません。すぐに実行可能なことを別表にまとめました。

平成24年度

活力ある組織をめざし 活動方針と新役員を決定

J Aきたみらい青年部・女性部・フレッシュミズ

第8回通常総代会を終える

来年で節目の10年を迎える三組織。設立以来「活動の主体は支部」の基本姿勢を変えることなく様々な活動を進めてきました。

本部活動は、支部との連携協調を図りながらオホーツクJA女性協や道女性協の活動に積極的に参加、さらには支部間の絆を強める「8支部統一活動」などにも取り組んでいます。

この様な中、総代会が開催され前年度の反省を踏まえ、新年度の「農に生きる仲間と共に夢と希望を持ち続けて」や「活力ある組織作りを築く」などを含めた活動方針を決め、新役員を選出して9年目の第一歩をスタートさせた三組織を紹介します。

女性部

魅力ある組織形成で 部員加入促進に

2月15日

J Aきたみらい女性部第8回通常総代会が2月15日、JAセンター事務所で開かれ、8支部の代議員38人が出席しました。

山崎副部長の進行のもと、荒副部長が開会宣言を行った後、斉藤理事

によるJA女性組織綱領の朗唱が代議員、来賓、執行部など出席者全員で行われました。

開会挨拶に立った上原部長は、春作業の準備などで忙しいなか出席した代議員と、女性部活動に協力いた

だいている来賓にお礼の言葉を述べました。そして出席した代議員に「組織検討会をステップに、部員加入の取り組みなど出来ることから一人ひとりが始めるべき」と強調しました。

総代会には、JAきたみらいの坂下専務、JAきたみらい青年部の中村部長、フレッシュミズの森谷会長が来賓として出席。代表して坂下専務から、JA事業に協力をいただいているお礼、昨年の作況状況と農業情勢、さらに昨年3月の東日本大震災などについて述べた後、「家族ぐるみで一つひとつの仕事を進めて行くのが農業。その中核を担っているのが女性」という過言ではない。女性部活動においても励まし合い、いつまでも輝き続けて欲しい」と激励とお祝いの言葉を送りました。



▲来賓を代表して激励と祝辞を述べる坂下専務



▲開会挨拶を述べる上原部長

オホーツクJA女性協会長の祝電が披露された後、議長に北見支部の寺西かおるさんと端野支部の田中明美さんを選出し、議事に入りました。議案第1号「平成23年度活動報告と収支決算報告」から議案第7号ま



▲ 8支部の代議員38人が出席して開かれた第8回通常総代会

での「その他」まで執行部が説明。
質問や意見などは特になく、全議案とも全会一致で承認されて閉会しました。

新部長に 斉藤のり子さん

全ての議案審議が終了した後、新旧役員の挨拶が行われました。

旧役員を代表して三役は「当初は不安もあったが、1年間を通じてたくさんのお出会いと楽しい思い出が出来た。これからも魅力ある女性部を作っていこう」と退任の挨拶が述べられました。引き続き、新支部長の自己紹介後、新役員を代表して部長に選任された斉藤のり子さんは「より良い女性部組織形成に向けた組織検討会でも一歩ずつ前進している。今まで以上の協力をお願いすると共に、楽しく交流を深めよう」と就任の挨拶を行い、会場の代議員から大きな拍手が送られました。

なお、新役員体制は次の通りです。理事6名と監事2名は、後日開催される役員会において各支部長から互選されますので、決定次第、支部にお知らせします。

- 部長 斉藤のり子(置戸支部)
- 副部長 西森美代子(訓子府支部)
- 副部長 黒須 倫子(北見支部)
- ※オホーツクJA女性協 役員も兼務
- 支部長は次の通り
- 温根湯支部 永江美貴子



▲退任の挨拶を行う上原部長、荒副部長、山崎副部長(左から)



▲総代会の議長を務めた端野支部の田中明美さん(左)と北見支部の寺西かおるさん

- 留辺蘂支部 春木 君枝
- 置戸支部 中澤ひさ子
- 訓子府支部 相馬 真弓
- 相内支部 川岸 啓子
- 上常呂支部 木村 芳江
- 北見支部 竹下 弘子
- 端野支部 田中 明美

(敬称・略)



▲新三役に選任され、就任挨拶を行う斉藤部長、西森副部長、黒須副部長(右から)



▲24年度の新執行部に就任した8支部の支部長

フレミズ

会員交流で結束力高め 積極的な活動展開

2月15日

J Aきたみらいフレッシュミズ第8回通常総代会が2月15日、J Aセンター1事務所で開かれ、8支部の代議員51人（委任4人含む）が出席しました。

定刻、長山副会長の開会宣言に引き続き、村上理事によるJ A女性組織綱領の朗唱を出席者全員で行いました。

森谷会長は「8年目を迎えた23年度も支部の活動を大切にするという柱のもと活動してきた。8支部統一活動や支部間交流に留まらず、地域の事業などにも参加していることに感謝している」と開会挨拶。

総代会には、J Aきたみらいの坂下専務、女性部の上原部長と青年部の中村部長が来賓として出席。

来賓祝辞で坂下専務は「フレミズの皆さんは、家族の健康管理や子育てと忙しい立場にあるが、組織活動に積極的に参加して、仲間と絆を深め合いながら自己研鑽に努めよう」と挨拶。女性部の上原部長は「農家に嫁いだお嫁さんとして頑張っている皆さんの活躍を期待する」と激励

の言葉が送られました。

議長に置戸支部の井上幸恵さんと安西千春さんを選出し、議案第1号「平成23年度活動報告と収支決算報告」から議案第7号「その他」まで審議され、全議案が全会一致で承認されました。

2名の議長は「本部役員、支部役員がまとめ役となり、会員皆さんが一つの目標を持って一致団結し、魅力的な活動を行いましょう」と退任の挨拶を述べて閉会しました。



▲「仲間の絆を深め合いながら自己研鑽を」と来賓挨拶を述べる坂下専務



◀「農家のお嫁さんとして頑張っている皆さんの活躍を期待する」と祝辞を述べた上原女性部長



▲開会挨拶を述べる森谷会長



▲出席者全員で行われたJ A女性組織綱領の朗唱

活力ある組織をめざし 活動方針と新役員を決定

新会長に

菅野あけみさん

総代会では役員の改選が行われ、新三役を代表して会長に選任された菅野会長は「1年間精一杯努めますので、会員皆さんの協力と支援もお願いしたい」と就任の挨拶を行いました。

なお、新役員体制は次の通りですが、理事6名と監事2名は、後日開催される役員会において各支部長から互選されますので、決定次第、支部にお知らせします。

○会長 菅野あけみ(訓子府支部)
○副会長 村上 郁恵(留辺蘂支部)
○副会長 黒須 美保(北 見支部)

支部長は次の通り

○温根湯支部 下込 祐美
○留辺蘂支部 遠藤多美子
○置戸支部 安西 千春
○訓子府支部 中西 智子
○相内支部 不破 美絵
○上常呂支部 穴田 優子
○北見支部 中嶋 里美
○端野支部 五十嵐里香

(敬称・略)

▲退任の挨拶を行う森谷会長、長山副会長、西原副会長(上から)



▲平成23年度の執行部を務めた役員の皆さん。1年間、ご苦勞様でした。
なお、大矢理事(置戸)と縦山理事(端野)は当日、諸事情により欠席となりました



▲平成24年度のフレッシュミズ新執行部のみなさん。三役と8支部の支部長
(左4人目から順に温根湯支部から端野支部まで)



◀新三役に選任された菅野会長、村上副会長、黒須副会長(左から)

青年部

結束を強固にして 活動展開を誓う

2月18日

J Aきたみらい青年部第8回通常総代会が2月18日、J Aのセンター事務所で開催され、代議員61名（委任4名含む）が出席しました。

奥山副部長の司会進行のもと、定刻に岡田副部長が開会宣言。

引き続き森谷理事によるJ A青年組織綱領の朗唱を出席者全員で行いました。

開会挨拶に立った中村部長は「昨年は、東日本大震災やT P P問題など激動の一年であった。我々農業者は、これからも安全・安心な農畜産物を生産し、消費者へ農業の大切さを伝えることが重要」と話し、「青年部活動を通して得られるものは、皆さんの貴重な財産になる」と部員間の結束を呼び掛けました。

来賓にJ Aきたみらいの大坪常務、J Aきたみらい女性部の斉藤部長とフレッシュミズの菅野会長が出席しました。

来賓を代表して、大坪常務は「今年には国際協同組合年。相互扶助の精神を持って、若い皆さんが農業に打ち込める環境をJ Aとして作り上げ



▲開会挨拶を述べる
中村部長

ていく必要がある。そのためにもT P P交渉参加には、系統一丸となつて断固反対を訴えて行く」と話しました。

その後、議長に訓子府支部の吉村誠司さんと堀口隆志さんが選任され、議案第1号の「平成23年度活動報告及び収支決算報告」から議案第7号の「その他」までが審議されました。

質疑では、訓子府支部の須河岐文部員から「役員報酬値上げの要因について、同支部の斉藤大輔部員からは、「国内外農業視察研修の内容について」などの質問・要望が出され、青年部としての考え方

と方向性を中村部長が説明した後、全議案が承認されて閉会しました。



▲激励と期待の言葉を述べる大坪常務



▲代議員61人が出席して開かれた
第8回通常総代会



▲議長を務めた訓子府支部の吉村誠司さん（左）と堀口隆志さん



▲提出議案を説明する執行部

活力ある組織をめざし 活動方針と新役員を決定

新部長に

佐藤正人さん

全ての議事が終了した後、新旧役員の挨拶が行われました。旧役員を代表して、中村部長から「部員の皆さん、奥山副部長、岡田副部長を始めとする役員に支えられ、役目を終えることができ、本当に感謝しています。今日選任された新役員の皆さんは、今まで以上に全員が何事も共

遠慮なく出して頂き、積極的な参加と協力をお願いしたい」と就任の挨拶を行いました。

なお、新役員体制は次の通りとなりますが、理事6名と監事2名は、後日開催される第1回役員会で互選される運びとなっております。

○部長 佐藤 正人(北見支部)
○副部長 児玉 渉(温根湯支部)
○副部長 北川 卓也(端野支部)

支部長は次の通り

○温根湯支部 東海林 健
○留辺蘂支部 荒 喜文
○置戸支部 渡邊健太郎
○訓子府支部 大畑 圭吾

引き続き新支部長の自己紹介後、新三役が挨拶。その中で部長に選任された佐藤正人さんは「皆さんが満足できる活動を目指して行きたい。そのためにも、意見や要望があれば



▲出席者全員で行われたJA青年組織綱領の朗唱



▲国内外農業視察研修について質問する
訓子府支部の斎藤大輔さん



▲役員報酬の値上げ要因について
質問する訓子府支部の須河岐文さん



▲監査報告を行う渡辺監事

○相内支部 森谷 祐樹
○上常呂支部 川畑 師和
○北見支部 福井 慎一
○端野支部 岡野 拓弥
(敬称・略)



▲平成23年度の執行部を務めた11人の役員皆さん。代表して退任挨拶を行う中村部長



▲新三役に選任された佐藤部長、
児玉副部長、北川副部長(左から)

新年度活動方針と 新役員などを決定

～年金友の会総会に
会員65人が出席～

AINONAI

相内



▲総会に出席した会員のみなさん

J Aきたみらい相内年金友の会（辻本健二会長）は2月22日から3日間、温根湯ホテルで第24回通常総会と温泉保養旅行を行い、会員65人が出席しました。中川相内地区運営委員長も、総会の来賓として出席。総会は議案第1号「平成23年度事業報告・収支決算報告」から始まり、議案第5号の「役員改選」まで審議され、出席者全員の承認を経て、閉

会となりました。役員改選で新会長に選任された高橋正則さんは「皆さんの支援と協力の下、充実した活動を目指し、役員一丸となって努めたい」と挨拶。総会終了後に開かれた懇親会では、会員同士の和やかな会話も弾み、参加者の親睦を深める3日間となりました。



▼交通安全決意宣言を行う渡邊健太郎さん(左)



OKETO

置戸

悲惨な事故を みんなで無くそう

～事故防止講習会に
組合員30人が参加～

置戸地区事務所は2月21日、農家組合員を対象に農作業・交通事故防止講習会を町中央公民館で行い、組合員約30人が参加しました。講師は、北見警察署置戸駐在所の砂田忠男署長。砂田署長は、町内で実際に起きた農作業事故や交通事故の事例などを交えて講話。その中で「事故防止に対して意識

を高く持つことが重要」と話した上で、事業主には「従業員などへの指導を徹底してほしい」と呼び掛け、講習会は終了しました。その後、組合員を代表してJA青年部置戸支部の渡邊健太郎支部長が「安全運転に心掛け、事故防止に努めます」と交通安全決意宣言を行いました。

小麦生産拡大と コンバイン導入目指して

～組合員と関係者ら
52人が参加して報告会～

ONNEYU



▲温根湯の土壌断面サンプルを見る参加者

温根湯地区小麦生産拡大推進協議会は2月8日、JA地区事務所です業報告会を開き、組合員42人と北見市、網走農業普及センター、JAなど関係者10人も出席しました。

同協議会は、小麦の生産拡大を図るために、国の事業でコンバイン導入を目指して昨年、発足しました。報告会では、23年度の活動と収支決算見込みなどの報告が行われまし

た。その後、昨年の12月に実施した温根湯と訓子府両地区の麦作生産組合の合同研修視察先の佐賀県・福岡県・山口県の農業改良普及センターや農林総合技術センターなどの概要が報告されました。

また、同事業で実施された温根湯地区の土壌調査結果がJAから説明されましたが、参加者は真剣な表情で聞き入りながら、熱心にメモする姿も見られました。

東西

▼川岸普及員の説明を熱心に聞く生産者のみなさん



KAMITOKORO



麦の収量増を 目指して

～活発な質疑も出た
きたほなみ栽培講習会～

麦作振興会上常呂支部（西野繁会長）は2月13日、上常呂地区事務所です「きたほなみ」の栽培講習会を行いました。小麦生産者が多数参加しました。網走農業改良普及センターの川岸普及員を講師に、昨年に播種した秋小麦の防除体系や施肥管理のポイントを過去の統計データをもとに説明を受けました。

昨年は、気象要因やM・ニバーレ

菌の発生などから、粒の充実が十分で細麦傾向となりました。製品率の低下と収量が抑えられた結果を受けて、越冬前後の莖数による追肥のコントロールで倒伏防止や製品率を高めること、さらに防除の時期や使用薬剤についても説明がありました。参加者からも活発に質疑が出され、本年の増収にける強い意気込みが強く感じられました。

20回目の総会 全議案を承認

～花卉部会、講習会と
20周年祝賀会を開く～

KITAMI



▲総会前に開かれた講習会

北見市花卉部会（松本和義会長）は2月20日、JAのセンター事務所
で第20回総会を開き、会員10戸が夫
婦揃って出席しました。
総会前には、網走農業改良普及セ
ンターの植松専門普及員を講師に招
き、「花卉類の連作障害」と題して、
講習会を行いました。土壌病害、土
壌センチュウなど原因と対策を学び

ましたが、改めて連作障害について
考える良い機会となりました。また、
他産地の取り組みなども紹介され、
意義ある講習会となりました。
総会は、部会活動について活発な
意見や質問が出され、提出した全議
案が承認されました。総会終了後
には、部会創立20周年を記念し、歴代
会長を招いて祝賀会も行われました。



▼氷のすべり台を楽しむ子どもたち



KUNNEPPU



氷のすべり台に 順番待ちの列

～さむさむまつりに
3000人来場～

冬のイベント「第33回訓子府さむ
さむまつり」が2月5日、町公民館
前広場で開かれ、町内外から訪れた
約3000人の皆さんが、寒さと雪
の遊びを体験しました。
JA青年部訓子府支部（岡崎和久
支部長）を始めとした町内の青年4
団体で実行委員会を結成し、各種雪
像制作や同まつりを運営しました。
同青年部が1月26日から夜を徹し
て制作した氷のすべり台には、子ど

もや大人が順番待ちの列を作ってい
ました。バレイショの新品種「スノ
ーマーチ」が入ったカレーライス3
50食を作りましたが、「おいしい」
と好評を博し、1時間ほどで完売し
ました。実行委員長を務めた岡崎支
部長は「部員が協力して作ったすべ
り台を子どもが笑顔いっぱい滑り、
疲れも吹っ飛びました」と話してく
れました。

定植時期まで 日々温度管理

～玉葱育苗ポット
伏せ込み作業始まる～

TANNO

端野



▲育苗マットの伏せ込み作業を行う後継者の剛土さん

3区で玉葱9^{センチ}などを栽培する佐藤栄一さんは2月22日から、玉葱播種作業を始めました。

翌日の23日は、極早生種と早生種の育苗専用マットをハウスへの伏せ込み作業を家族3人で行いました。

これからは、中晩生種を含め3月8日頃まで作業が続きますが、被覆材を掛けるなどして、温度管理に細

心の注意を払います。

佐藤さんは「日中の冷え込みもあり、ハウス内の地温が例年に比べ上がらない」と話しながらも、「昨年は少し、病気が発生した。今年は適期防除と適期収穫を目指し、高品質な玉葱を生産したい」と意欲的な姿勢を感じました。

東西

▼資料やパソコンに真剣な眼差しで向かう会員



RUBESHIBE

留辺薬

上手に操作して 我が家の経営分析

～会員も熟知
目的にゴールインか～

瑞穂簿記グループ「M-TAX」（井上光夫会長）は2月28日、花園会館で簿記講習会を開き、会員10人が参加しました。同グループは、会員の簿記や税務に対する知識向上を目的に、一昨年発足。

3月15日の確定申告に向け、昨年末より講習会を開き、9回目の開催となった今回のテーマは経営分析です。講師は、網走農業改良普及セン

ターの綾部普及員。

会員はこれまで作成した決算諸表を基に、収益性や安全性の指標を計算、さらに所得と家計費のバランスなどから分析を行いました。

井上会長は「会員は、毎年の活動を通じて分析にも慣れてきて、会の目的が達成出来ている」と手応えを話してくれました。

思い出の写真

干支花壇

この写真は、林さん宅の花壇で13年前の平成11年に撮った1枚の写真です。中央にうさぎが飛び跳ねている様子を7色で表現しています。

林さんは13年前から花壇に、その年の干支をデザインして飾っていますが、昨年でちょうど干支が一回りしました。花壇作りを始めて約45年になる大ベテランの林さん。作り始めた頃は、農協のロゴマーク（稲穂）をいろいろな花で飾っていましたが、ある年の年賀状を見て「その年の干支を花で描いてみよう!」とひらめきました。

林さんが住む美園地域を走る夕陽ヶ丘通り（通称・フラワー通り）は、道路沿いに環境美化の一環としてたくさんの花が植えられており、多くの市民に親しまれています。林さんの花壇も見ごろな季節になると、市内の方や遠方から花壇を見に来る人も多くなります。

林さんは当初、花の種類の選定に試行錯誤の連続でしたが、干支の花壇作りが一回りした今、「年齢的に、もうそろそろ止めようかなとも考えた。でも楽しみにして来る方もいるので、体力が続く限り花壇作りを続けたい」と、スタート時の写真を懐かしそうに見つめながら、笑顔で話してくれました。



置戸地区・雄勝

小木 昇さん (58歳)



▲ 3時間耐久レース「エンデューロ」で、愛車を果敢に走らせる小木さん



きたみらいの
ホープさん

「任せたぞ!」と
言われるように

北見地区・豊地

井上 竜介さん (22歳)

竜介さんはタマネギ・小麦・ビート・ピーマンを栽培している井上工嗣（のりつぐ）さん、峰子さん夫妻の次男で就農して2年目です。

趣味は?

スノーボード、ドライブ、スポーツ鑑賞などです。フットサルチームを作ろうと準備中です!

休日はどんな事をしていますか?

買い物に行ったり、友達とご飯や飲みに行ったりしています。

理想の女性とは?

明るい人でいっしょにいて、気を使わなくてもいい人が理想です。現在彼女募集中です(´_`)

結婚はいつまでに?

30歳くらいまでに出来ればと考えています。

好きな食べ物・嫌いな食べ物は?

好きな物→焼肉、カレーライス、ケーキ等
嫌いな物→特にないです。

今年の抱負は?

積極的に仕事を覚え、1日でも早く「お前に任せたぞ!」と、父に言われる様になりたいです。

4月号のホープさんは、JAきたみらい青年部上常呂支部の?さんを予定しています。広報編集委員が突然、取材にお伺いすると思いますが、ご協力お願いします。



今月号の「私のパートナー」は、JA青年部の女性との交流パーティーで5年ぶりに再会したことをキッカに交際が始まり、昨年の11月に結婚した畠山大輔さんと綾子さん夫妻を紹介します。

母の負担を減らしたい

訓子府地区・大谷

畠山 大輔さん(28歳)
綾子さん(27歳)

Q ご結婚されたのはいつですか？

平成23年11月9日です。

Q 知り合ったキッカは？

09年にJA青年部訓子府支部で開いた「女性との交流パーティー」で5年ぶりに再会しました。20歳の頃、共通の友人で知り合い、いっしょに遊んだことがありました。パーティーの時はぜんぜん気付かず、名前を確認して思い出した状態でした。

Q パーティーで再会した時の印象は？

大輔さん「しっかりして、いい子だな～あ」

綾子さん「チャライな～あ」

Q 結婚を決意した大きなポイントは？

再会後、交際を始めました。いっしょに居ても気楽に本音が話し合え、一生の伴侶は「この人だ」と思ったことです。

Q 綾子さんの出身地は？

北見市出身で市内の病院で、看護助手していました。

Q 子どもは何人？

賑やかな家庭が好きなので、2～3人は欲しいです。

Q どんな家庭を築きたいですか？

会話が弾み、笑顔が絶えない明るい家庭を築きたいです。

Q 目指す農業経営と行ってみたい所は？

就農して9年目に入りました。母には苦勞をかけているので、まずは楽をさせてあげたいです。タマネギ主体の経営ですが、ここ数年、湿害で減収しているので、圃場の整備などを図りながら、高収量、高品質生産に努めたいです。アメリカのシカゴに友人がいるので、チャンスがあれば2人で行ってみたいと思っています。



【写真説明】

テランセラやペコニアを中心に、7色を使って作られた干支(うさぎ)の花壇

相内地区・美園

林 富夫さん(76歳)



エンデューロ

My Taste

小木さんの趣味は、バイク競技の「エンデューロ」です。聞き慣れない言葉ですが、昔、人命救助が始まった時代、車が入れない山奥に向かう手段として、オートバイで現地へと走りますが、山や川、林など走り抜ける過酷な様子を、オートバイレースに取り入れたと言われています。

小木さんが「エンデューロ」を始めたキッカは、34歳の頃、バイク店にゼッケンが貼られたバイクを見て、「このバイクで、野山を走ったら最高では？」と感じたことです。それから、3時間耐久レースのエンデューロやタイムを競うモトクロスなどに参加しています。

デントコーン収穫を終えた小木さんの畑と、隣接する山にコースを設けて大会が続けていますが、毎年、50人以上の参加者と観客100人程度が訪れます。大会を終えた後、仲間とビデオを観ながらの反省会もレースやバイクの話で盛り上がるようです。勿論、荒れた畑の手直しや維持管理にも努めています。

250ccクラスのバイク3台を所持している小木さんに魅力を探ねると「スピード感とスリル、そしてハンドル技術が求められるところ」と、笑顔で話してくれました。

バイク競技を20数年続けている小木さんは最後に「家族には“また始まった”と諦められているが、早く送り出されていることに感謝している」とお礼の言葉がありました。



大きくなったら



北見地区・北陽
中嶋 芹菜ちゃん
(7歳)

パン屋さんになりたい

私は大きくなったら、パン屋さんになりたいです。私は卵アレルギーで、卵を使っている食べ物はあまり食べられませんでした。

パン屋さんできれいに並んで、いいにおいのパンをいつも「食べたいなあ〜」と思いながらみていました。今は少しずつ卵を使った食べものも食べられるようになりました。その中でドーナツが好きです。

私は卵アレルギーの人でも食べられる、卵を使わないおいしいパンを作りたいです。

中嶋賢さん、里美さん夫妻の長女です。小学校1年生の芹菜ちゃんは、授業終了後に児童館に通い、お友達とおにごっこやお絵かきを楽しみながら、元気に遊んでいます。

ほのぼのの広場



わが家の愛アイドル



温根湯地区・大和
山梨 玄稀くん(1歳6か月)

好奇心旺盛

取材に伺った当日も人見知りせず、玄関で迎えてくれました。アンパンマンのDVDがお気に入りの玄稀くんです。

水槽で泳ぐ金魚を眺め、「きんた！きんた！」と呼んだり、オモチャの車や、家の中を走りまわって遊ぶ元気な玄稀くん。

好きな食べ物は、みかんとイチゴ。いろんなことに興味を示す今は、大人がやっていることを何でも真似をしたがっています。

そんな玄稀くんは、お父さんとお母さんは「とにかく健康に、元気で気持ちの優しい子に育ててほしい」と話してくれました。

玄稀くんは、山梨一将さん、めぐみさん夫妻の長男です。

昭和4年に現在地の常川で生まれた悟さんは、尋常小学校卒業と同時に農業に従事。主にハツカや豆類、えん麦、馬鈴薯、水稻などを作付けしていました。当時、自給自足の生活に採れた米は、背負って街に行き、生活用品と交換してくる時代でした。特に、青えんどう豆や亜麻などは、お金になる貴重な収入源でした。玉葱を導入した当初の面積は5反。除草剤も無く、1週間かけて、手で草を取りしても草が生い茂るのが辛かったそうです。政弘さんに経営移譲した現在は、年金友の会の活動や仲間夫婦と温泉旅行に行くのを楽しみとしています。

悟さん

温泉旅行が楽しみ

おしどり夫婦

カヲルさん

昭和28年に悟さんと結婚。1男2女の子どもに恵まれました。子どもたちがまだ幼い昭和36年に、悟さんが病を患って入院。大黒柱の不在で、悟さんの両親と必死になつて農作業に頑張ったこと、さらに冬期間、山へ除雪の仕事に行つたことなどを懐かしそうに話してくれました。今は、悟さんと行く温泉旅行や地域の仲間で作つた「椿会」というグループで、年5回程度の集まりで、お茶を飲んだりしながらの会話を楽しんでいます。

おらがまちの



上常呂地区・常川
安田 悟さん(82歳)
カヲルさん(81歳)



まちがいさがし

Bのイラストには、Aのイラストと違う部分が5カ所あります。間違っている部分を右下のイラストの中の数字でお答え下さい。

A



B



2月号クイズの当選者

2月号のまちがいさがしの答えは「4. 5. 6. 7. 9」でした。正解者61名の中から抽選の結果、当選者は次の方々です。尚、抽選はJ Aきたみらいの坂下専務にお願いしました。

() 内は地区名

- ・大関 博子さん(温根湯)・川口 富子さん(相 内)
- ・田中 利枝さん(留辺蘂)・中山 衛さん(相 内)
- ・大矢 溪さん(置 戸)・山本 麻唯さん(上常呂)
- ・水上 清さん(訓子府)・黒須 正幸さん(北 見)
- ・浅川 町子さん(訓子府)・富樫 柑音さん(端 野)

以上の方々には、日清食品の「北の焼きそば・オホーツク北見塩焼きそば」カップ麺5個をプレゼントします。



応募方法

答えが解った人は、別紙の応募用紙に答え(番号)と広報誌へのご意見・ご感想を記入してFAXでご応募下さい。抽選で10名の方に、このほど日清食品から北見タマネギを具材にして新発売されたカップ麺「ラ王」を5個プレゼントします。

毎 日しばれますね。玉葱の播種作業も始まり、今年はどうな年？。ある講習会で平成5年と似た年だそう。その年は米が凶作で、タイ米を食べた年です。いい年であってほしいですね。(匿名希望)

この年、私は旧J A時代にエコーブ店にいました。外国産米の入荷日には、店頭で大勢の消費者皆さんが並んだのを覚えています。

種 子を蒔くのは早いかな？あれこれと買い込みました。自分で育てた野菜は楽しみなんです。子供や友達の所へ行ってしまうけど。やっぱり楽しいんだよね。

(北見地区・戸田 時春さん)

どんな野菜を育てるのですか？きっと皆さんが楽しみに待っていると思いますので、頑張って美味しい野菜をたくさん作って下さい。

今 年は2月になっても寒い日が続きますね。灯油を使っている我家では、昨年度から例年より使用量が多く家計に響いています。節分過ぎても春は、暦の通りなりませんね。春よ早くこーい！

(訓子府地区・林 比呂子さん)

雪が少なくして除雪作業は楽していますが、我家も同じように灯油の使用量は、昨年よりも多いです。早く温かい春が待ち遠しいですね。

T PPでどうなる？の特集記事が非常に印象的で、大変良かったです。幅広く、深く、そして公平な視点が好感を持ってました。これからもこの様な特集を掲載して下さい。

(相内地区・萩原 直利さん)

今月号も網走市で開かれたT P P 決起集会を掲載していますが、農業のみならず日本全体の問題だと思います。今後も発行月にあった特集を掲載したいと考えています。

読者の声

VOICE



確かな絆で 今こそ守ろうこの大地！

農の力を
信じて

第32回オホーツクJA女性部研修大会・家の光大会

エネルギーギッシユな 農村女性330人参加

オホーツクJA女性協議会は2月2日と3日の2日間、温根湯温泉の大江本家で「第32回オホーツクJA女性部研修大会・家の光大会」を開催しました。

両大会には、オホーツク管内14JAの女性部員、事務局など約330人が参加。きたみらい女性部は、本部と支部の役員など102人が参加しました。

▲講演やアトラクションで会場内は終始、元気で素敵な笑顔が絶えませんでした

開会式では、同協議会の馬淵陽子会長が「農業の元気は、私たちの元気。今日は元気で美しくいるための研修」と述べ、全員で本大会の趣旨を再確認しました。引き続き、オホーツク農業協同組合長会の佐藤正昭会長（JAこしみず）、オホーツク青年部協議会の中山和彦会長から祝辞が述べられました。

各種研修報告・発表では、当女性部の山崎副部長（女性協監事）が昨年12月に開かれた「東北・北海道リーダー研修会」を報告。「未だに震災の傷跡の残る場所での研修会であったが、東北の人の温かさ、仲の良さを実感した」と話し、「人と人との絆は、オホーツクから東北、そして日本中へとつながっている」と、会場へ熱い思いを伝えました。

その後、「JA全国女性大会」の報告と「組織活動体験発表」や「家の光記事活用体験発表」が行われました。



▲「ハッスルおばあさんをめざして」と題して講演した落語家の春雨や雷蔵氏。当日はオカリナ演奏も披露してくれました

講演は「ハッスルおばあさんをめざして」と題し、落語家・春雨や雷蔵（はるさめやらいそう）氏の漫談。講師の巧みな話術に会場は笑い声であふれましたが、それだけでありません。両腕を伸ばし、空中で右腕を丸を、左腕で四角を書く「ぼけ防止体操」、さらにオカリナ演奏と聞き手を飽きさせない構成で充実した時間を過ごしました。

初日の最後は、参加者全員が楽しみにしているJAのアトラクション。当女性部から訓子府支部と北見支部が参加。トップバッターの訓子府支部は、色違いの鮮やかなワンピースと首からはレイ（花の首飾り）を下げ、エクザイルの曲に合わせてフラダンスを披露。1番というプレッシャーも跳ね除け、優雅なダンス



▲カラフルな衣装で、エクザイルの曲に合わせて「フラザイル」を踊る訓子府支部のみなさん。呼吸もピッタリ！



▲可愛い衣装とユニークな踊りに大きな拍手が寄せられた北見支部の「マルモのおきて」

青年女性ネットワーク

第16回 J A 北海道女性協議会フレッシュミズ部会北海道交流会が1月26日、27日の2日間、札幌市内のホテルで開かれました。

当 J A のフレッシュミズからは、長山副会長、西原副会長、菅野理事が参加し、全道から集まった80人と共に、現況の農業情勢の学習と情報交換や仲間作りに取り組みました。

同部会の井上由紀子部会長は「この機会に普段交流できない人との出会いを楽しみ、有意義な時間を過ごそう」と開会挨拶。道女性協の岩永

かずえ会長は「研修内容が盛りたくさん。しっかり学習しよう」と呼び掛けました。

フレッシュミズの主張の北海道予選が行われ、3人が発表。その後、家の光情勢報告やフレッシュミズ組織について学び、「組織活性化と新規加入について」のグループ討議を行いました。参加者は10グループに分かれ、単組ごとに現状や活動の実態、加入促進に向けた取り組みを話し合い、その結果をグループごとに発表。

2日目には、フレッシュミズの主

張の結果発表が行われ、J A とまこまい広域の石崎小百合さんが最優秀賞を受賞しました。

テレビの「どさんこワイド」でお馴染みの北原宏之さんが「見方で変わる天気予報」と題して講演。農業を進める上で欠かせない、天気予報の詳しい見方を学びました。

また、J A 厚生連の真中道子さんによるメイク講座も行われ、すぐに取り入れられるメイク術を学びました。最後に J A 女性の歌「明日輝くために」を合唱し、閉会となりました。

豊富な研修で知識と見聞が

フレッシュミズ部会全道交流集会



▲グループ討議の結果を報告する J A きたみらいフレッシュミズの菅野理事

が、昼食で北海道米3銘柄の食べ比べや、エコープのジョイライフ商品説明もあり、最後まで盛りだくさんの研修会となりました。



▲フラワーハーモニー展で最優秀賞を受賞した訓子府支部（川南地区）の「押し花のコースター」



▶フラワーハーモニー展で優秀賞を受賞した端野支部の「フラワーアレンジメント」



▲生活展で優秀賞を受賞した置戸支部・河野智子さんの「布絵本」

で会場を温めました。

5 番目の登場は北見支部。「マルモのおきて」の主題歌「マルマルモリモリ」の歌に合わせて踊りを披露しました。ステージ上の愛菜ちゃんと福くん、さらにイチゴちゃんとネコちゃん？に大歓声が起こりました。

どの J A もユニークな演出で、アンコールの掛け声が出るなど、大いに盛り上がった1時間でした。

2 日目はレイボー体操から始まり、まだ寝ぼけている体をしっかり起こして講演に移りました。

J A 北海道厚生連の真中道子氏を

講師に、「いつまでも若くいるために」と題して講演。引き続き、家の光情勢報告では、北海道東北普及局の伊藤文吾次長が被災地に「ミサンガ」を届ける「震災きずなプロジェクト」の取り組みを報告しました。

2 日間、展示されていた総出品数92 点のフラワーハーモニー展と生活展の審査発表が行われ、当女性部から3 点が入賞しました。

閉会式では、馬淵会長が TPP 交渉参加反対に対する決議文を読み上げ、満場一致の拍手によって承認されました。

24年度

事業方針などで

意見交換

冬期地区別懇談会終える

2月13～14日と16～17日の4日間、午前と午後の時間帯でJAの「冬期地区別懇談会」を行いました。

今回は温根湯地区と留辺蘂地区が

合同で開かれました。全体として前年の414人とほぼ同程度の411人の出席となりました。JAからは常勤役員が出席し、地区運営委員長の司会のもとで進められました。

限られた時間の中で、資料に基づ

き①平成24年度事業計画基本姿勢(案)並びに部門別経営計画②平成23年度共計玉葱・馬鈴しょ選果並びに畜産情勢③平成22年度生産費(10ア/当り)結果の概要④次期役員改選、総代選

挙に向けた対応などについて説明。

その後、数多くの組合員皆さんから活発な意見と質問が延べ72件出されました。

なお、地区ごとの出席状況は別掲の通りですが、質問、意見、要望などについては、3月の定例理事会で要約し、「Q&A」としてプリントし、お届けする予定です。



地区ごとの懇談会出席状況

地区名	組合員戸数	出席戸数	出席率	出席者数
温根湯	78	24	30.8%	26
留辺蘂	39	15	38.5%	15
置戸	120	52	43.3%	52
訓子府	318	77	24.2%	78
相内	114	34	29.8%	34
上常呂	128	38	29.7%	39
北見野	229	62	27.1%	62
端野	212	105	49.5%	105
合計	1,238	407	32.9%	411



▲2月13日に合同で開かれた温根湯地区と留辺蘂地区の懇談会(温根湯地区事務所で)

馬鈴しょ選果を集約化

青果物センターの

馬鈴しょ選果機更新

昨年の12月26日に開催した第2回臨時総代会で、「馬鈴しょ集出荷貯蔵施設の取得」を提出し、満場一致で承認を受けました。

23年度産分の選果が終わる3月以降に、倉庫の改修や大型選果機の新置工事が始まりますが、その概要をお知らせします。

東相内町の青果物センターは、昭和46年に作られ、鉄筋平屋建て床面積4200平方メートルの選果場兼貯蔵庫内にある生食用の選果機を新型に更新します。新選果機は選別処理能力が原料ベースで1日120ト、現状の最大80ト90トに比べ、作業効率のアップが図られます。さらに、新選果機は大型のため、倉庫内の全面改修も行われます。

また近年の高温多湿などの影響で



▲倉庫内の全面改修と新選果機が導入される青果物センターの馬鈴しょ選果場(北見市東相ノ内)

各生産組織が 第10回通常総会開く

事業計画と新役員体制を決める

新年度に入った2月、各作物の生産者で構成されている生産組織の第10回通常総会が開催されています。
21日は、馬鈴薯振興会が当JAのセンター事務所で



▲新三役に選任され就任挨拶を行う小野会長、宮下副会長、古谷副会長(左から)
円写真は、4期8年に亘って役員を務め、退任挨拶を行う会田貢前会長



開催され、代議員50人が出席。23日には、玉葱振興会が当JAのセンター事務所で開催され、代議員79人(委任含む)が出席。さらに27日には、麦作振興会が北見農業会館で、代議員49人(委任含む)が出席して開催されました。
各組織とも、平成23年度事業報告と収支決算、24年度の会費賦課金や事業計画と収支予算、さらに任期満了に伴う役員改選などを提出。
会長の開会挨拶や来賓の祝辞が述べられた後、議長を選任し審議に入りました。
議案説明は会長を始めとした執行部と事務局が行い、慎重審議の結果、各組織とも全議案が全会一致で承認され、新年度事業がスタートしました。なお、三組織の新三役は次の通

道内各地で目立った中心空洞のジャガイモを除外する中心空洞センサーが同センターの外に、平成5年施設の置戸と端野の両選果場に備えられます。事業費は建物補改修・既存機

械設備撤去・アスベスト除去などで約4億円、選果機・既存選果機撤去・中心空洞センサーを含めて8億7千万円、総事業費12億7千万円が見込まれています。

馬鈴しょ選果場の主要施設は現在、同センター、北見、端野、置戸、訓子府の5カ所ですが、同センターの設備更新に伴い北見の選果場は閉鎖となり集約されます。



▲新三役に選任され就任挨拶を行う平川会長、佐藤副会長、堺副会長(左から)
円写真は、4期8年に亘って役員を務め、退任挨拶を行う南博敏前会長



- きたみらい玉葱振興会**
会長 小野 洋一(訓子府)
副会長 宮下 直樹(北見)
副会長 古谷 和徳(端野)
きたみらい馬鈴薯振興会
会長 平川 千春(端野)
副会長 佐藤 茂樹(訓子府)
副会長 堺 信幸(置戸)

りですが、理事と監事については、紙面の都合から割愛させていただきますので、ご了承願います。



▲新三役に選任され就任挨拶を行う河合会長(中央)、西野副会長(左)、伊藤副会長(右)
円写真は、2期4年に亘って会長を務め、退任挨拶を行う高谷勲前会長。高谷前会長は理事として留任されます



- きたみらい麦作振興会**
会長 河合 正福(訓子府)
副会長 西野 繁(上常呂)
副会長 伊藤 正史(端野)
(敬称・略)



タマネギの素晴らしさ児童に

栽培の苦勞を伝える

札幌市内の北光小学校で

道内JAやホクレンでつくる北海道産青果物販宣協議会は2月15日、道産野菜の素晴らしさを生産者が直接伝える食育活動「Greenベジフル教室」を、札幌市立北光小学校で行いました。

日本一の生産量を誇る当JAの生産者などが同校を訪問し、3年生約60人に栽培の苦勞や、食べ物の大切さを話しました。

同校を訪れたのは、同協議会（ホクレン）の事務局3人と、きたみら

い玉葱振興会の会田貢会長ら7人。

会田会長は、ビニールハウス作りから収穫、出荷までの流れを画像とともに説明。自身の経営規模を「みんなのグランドの24倍もの面積」と話すと、児童から驚きの声が上がりました。

また、会田会長といっしょに参加した宮農振興部の堀仁志職員は、大正6年に北見市で試験栽培が始まったことを紹介しながら、原産地や栽培の歴史を説明。さらに当JAから

全国の市場に、年間約21万7000トを出荷していることも話しました。児童は、3種類のタマネギの皮や色、枚数などを観察し、15分と30分炒めた食べ比べも行い、炒める時間を長くすれば甘味が増すことも体験しました。

会田会長は「生産者の頑張りや食べ物の大切さを伝えることができた。今日の子どもたちも含め、大人も道産野菜にもっと関心を持ってほしい」と期待を寄せていました。

同教室の活動は今年度で2年目。東京7校、大阪2校に加え、道内では今回を含めて2校で行なわれました。

地場野菜を知って「野菜博士」

NPO法人・北見市立中央小学校で出前授業

NPO法人青果物健康推進協会（東京）は2月23日、北見市立中央小学校で出前授業を行い、タマネギやバレイシヨなど身近な野菜を題材に「地元の野菜を知って、野菜博士になろう」と児童に呼び掛けました。5年生47人の総合学習の一つで、同協会の出前授業は道内で同校だけです。シニア野菜ソムリエで、同協

会が認定するベジフルティチャーの辻綾子さんが教壇に立ちました。

地元で取れると思う野菜を9つのマスに書き入れるビンゴゲームで授業開始。児童はタマネギやバレイシヨ、ナスビ、ニンジン、アスパラなどを次々と楽しそうに記入。

辻さんは「野菜博士心得ら力条」を説明した後、「消費者の声が生産者

に届く」と地元野菜を食べる利点を挙げ、「出来る限り地元産のものを」とアドバイスしました。

ナスビが苦手という5年1組学級委員長の子が「お母さんとナスビを使った料理を作り、お父さんといっしょに食べたい」と意欲的に話してくれました。

担任の千葉勝志先生は「地産地消

の意味を正しく知る食農教育と社会科を融合させた授業になった」と話し、「全員が野菜博士の認定書を得てほしい」と期待していました。



▲「地元の野菜を知ろう」と児童に話す辻さん(左)



▲作業着姿でタマネギの栽培から出荷までを話す会田会長

こだわりタマネギ 「真白」播種始まる

北見市こだわり野菜部会

北見こだわり野菜部会は2月8日、極早生タマネギ「真白」の種まきを始めました。部会長の井上勲さん宅でも、昨年より2日早く家族総出で作業を行いました。

同部会は2009年から本格的に「真白」を栽培。翌年からタマネギ圃場の春起しの際に、木炭を2回すき込み、土壌改良と地力増進に務め

ています。そのため、環境に優しいタマネギとして認められ、13戸の会員が10・5で栽培しています。

井上さんは秋小麦やてん菜の他、タマネギ14畝を作付けし、その内「真白」は1・2畝。倉庫内に設置された播種機を使って育苗箱に育苗培土を入れ、コーティング種子を落として土で覆い、その数は約130

0枚にも及びます。

井上さんは「昨年は6月の降雪でほぼ全滅し、収穫の喜びを味わえなかった。今年も畑作りを心掛け、10畝当たり3・8トは生産したい」と強い決意を話してくれました。

同部会の会員は15日までに種まきを終了し、4月末の定植作業に備えます。



▲家族総出で行われた「真白」の播種作業

30周年の節目を祝う

JAきたみらい青年部 訓子府支部 畑作専門部

JA青年部訓子府支部の畑作専門部（田川忍部長）は2月20日、JA訓子府地区事務所で「設立30周年記念式典」を開き、部員や歴代部長と事務局など関係者48人が出席。

同専門部は昭和57年に、次世代の農業を担う青年部員が専門的技術の習得と仲間作りを目指して発足しました。田川部長は「農業環境は厳しい状況下にあるが、我々部員は訓子

府の地に足を根付かせ、農業経営の技術向上に日々努力したい」と、今後の抱負も含めて挨拶を行いました。

須河徹訓子府地区運営委員長代理は「畑作物の技術的な課題解決に向けて取り組んできた成果は、訓子府農業の大きな糧になっている」と話し、同専門部の活動を賞賛する言葉を送りました。

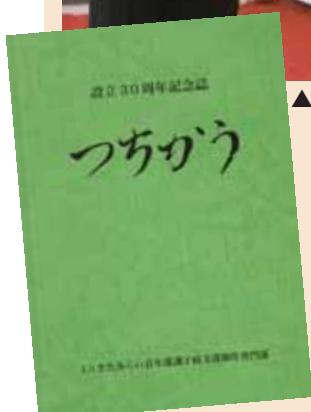
式典では平成13年度以降の歴代部

長10人と事務局5人に、田川部長から一人ひとりに感謝状が手渡されました。祝賀会は、OB部員や現部員が30年間の活動を振り返ったり、今後の新たな試験などを積み重ねていく活動を確認し合う会話などが弾み

ました。

同専門部は、設立30周年を記念して、記念誌「つちかう」（B5サイズ）を70部発行し、部員や関係者に配布しました。

▲田川部長（右）から感謝状を受け取る第20代部長の佐藤浩基さん。下段写真は30周年を記念して発行された記念誌「つちかう」



創作意欲をかき立てる一品！

野菜ソムリエコミュニティ札幌は2月26日、札幌市内のベジカフェまぐろで「スノーマーチと道産あずき講座」が開かれ、札幌在住の野菜ソムリエ19人が参加しました。

講師に農学博士の加藤淳先生を招き、スノーマーチの特徴やでんぷん質などの説明に、参加者の皆さんは、熱心にメモを取っていました。

講座終了後には、「スノーマーチのうた」を聞きながら「スノーマーチの地中海風サラダ」を試食。

その後、メイクインとスノーマーチで作った「ポトフ」の食べ比べを行うと、「甘味が全然違う」「すごい！」と参加者からの感嘆の声が上がり、加藤先生は質問攻めに遭っていました。

スノーマーチは、ホクホク感とねっちり感がいっしょに楽しめるのが特徴だと思えます。また、肌の白さと甘さは野菜ソムリエの創作意欲をかき立てるものです。今回、参加者にお土産として配布したスノーマー

野菜ソムリエ集い

「スノーマーチ講座」

ちも、きつと美味しい料理に変身すると思えます。

札幌でも簡単に購入出来るようになる日を楽しみにしています。農家の皆さん、来年は期待しています。

なお、本文はHTBアナウンサーで野菜ソムリエの佐藤麻美さんからの寄稿です。また、本講座に当JAから「スノーマーチ」40⁺を提供しています。

寒さにふるえ

焼き肉を堪能

氷点下10度の焼き肉まつり

北見市の冬の名物行事「北見激寒焼き肉まつり」が2月10日、北見芸術文化ホール駐車場で開催しました。氷点下10度を下回る屋外でしちりんを囲み、焼き肉を囲むイベントで、今年で13回目となります。JAきたみらいも株グリーンズ北見と協力して、バレイショ「スノーマーチ」80

⁺をゆで上げ、食べやすくカットされた袋を参加者に配布しました。

同まつりの下元陽司実行委員長は「寒さで頬が痛い、おいしい焼き肉を食べて寒さを吹き飛ばそう」と参加者に呼び掛けました。

約300個のしちりんが並び会場には、道内外から約1500人が訪

れました。たれやビールなどの飲み物は、放っておくとシャーベット状になる寒さ。参加者はスキューエアなどを着込んで万全の防寒態勢の中、白い息を吐きながら熱々のサガリやホルモンを食べていました。

初めて参加した紋別市の北口香織さん(24)は「激寒の下で焼き肉を味わってみたいと思い、友達と参加しま



▲激寒の中「スノーマーチ」や焼き肉を楽しむ北口さん(中央)

した。さすが焼き肉の北見とあっておいしかった」と満足そうに話してくれました。



▲野菜ソムリエの皆さんといっしょに「スノーマーチの地中海風サラダ」を試食するHTBアナウンサーの佐藤麻美さん

第1回

理事会報告

●平成24年2月24日(金)

2月24日、午前9時30分より第1回定例理事会が開催され、報告事項11件、議決事項11件が協議され、原案通り承認されました。

【報告事項】

- ①監査報告(決算棚卸・自己査定・クミカン精算状況)について
- ②平成24年度監事監査計画について
- ③内部監査(融資・コンプライアンス倫理)報告
- ④平成23年度内部監査業務活動報告について
- ⑤組合員状況報告について
- ⑥地区別懇談会の実施報告について
- ⑦信用評価基準による階層区分の設定及び平成24年度再建対策農家の選定について
- ⑧平成24年度農家経済再建対策指導方向について
- ⑨平成23年度資産査定に係る2次査定結果について
- ⑩平成24年度産玉ねぎの取扱体制について
- ⑪生乳生産状況及び個体取引価格状況について

【議決事項】

- ①出資増減口及び持分譲渡について
- ②固定資産の取得について
- ③定款、規程類の改正について
- ④平成24年度コンプライアンス・プログラムの制定について
- ⑤平成24年度余裕金の運用について
- ⑥税効果積立金の取り崩しについて
- ⑦就農支援資金の北海道からの借り入れについて
- ⑧水田・畑作経営所得安定対策等支援資金の借り入れについて
- ⑨平成23年度事業報告及び収支決算状況について(貸借対照表・損益計算書)
- ⑩平成23年度剰余金処分(案)について
- ⑪相内人参施設の支援対策について

JA事務所 始業時間変更

4月2日～

4月2日(月)から、センター事務所、8地区事務所、資材店舗などの始業時間が増えになりますのでお知らせします。

■事務所・資材店舗■

・始業 午前8時40分 ・終業 午後5時00分
※ホクレン給油所の営業時間は午前8時から午後7時まで(月～土)。日曜日と祝祭日は午後6時までの営業。なお、日曜日は訓子府と上常呂の両給油所は休日となり、端野給油所は第2日曜日のみ休日。

JA酪農セミナーのお知らせ

JAでは、きたみらい酪農振興協議会と共催し、次の通り「酪農セミナー」を開催致しますので多くの組合員皆様へ受講されますようお知らせします。

○とき 平成24年3月26日(月) 午後1時30分から

○ところ JAきたみらい訓子府地区事務所

3階大会議室

○講師 ホクレン本所

自給飼料課 調査役 岩淵 慶氏
演題「良質粗飼料の確保に向けた植生改善の取り組み」

道立総合研究機構農業研究本部畜産試験場家畜研究部技術支援グループ

主査 佐藤 尚親氏

演題「簡易更新など植生改善実践例の紹介」

健康診断(検診)を受けましょう!

JAでは農業従事者の健康づくりを促すとともに、健康診断の未受診者解消に向け「健康診断の受診率向上」を振興方策に掲げています。

組合員及び家族の皆さんにおかれましても、健康管理の一環として、年に1回は受診されるようお勧めいたします。

■正組合員とその家族の検診受診数■

(平成23年2月1日から24年1月31日現在まで)

	温根湯	留辺蘂	置戸	訓子府	相内	上常呂	北見	端野	合計
人間ドック(厚生病院)	49	33		47	31	12	55	25	252
巡回ドック(厚生病院)	3				1	57	11	23	95
その他ドックガン検診			100	125		1	2	12	240
合計	52	33	100	172	32	70	68	60	587
受診率(戸)	35.9%	48.7%	52.5%	21.4%	16.7%	32.0%	21.4%	17.5%	26.2%

※JAきたみらいの就農者は家族従業員も含め約4,000名。年間の受診率は約15%。

■検診(厚生病院)で発見された疾病と件数■

(平成22年度に実際発見された症状と病名)

・早期胃癌1件 ・いぼ状胃炎2件 ・慢性胃炎3件 ・萎縮性胃炎6件
・びらん性胃炎2件 ・胃ポリープ1件 ・胃潰瘍1件 ・胃潰瘍癒痕1件
・大腸ポリープ8件 ・高血圧症4件 ・心室性期外収縮1件
・肝機能障害1件 ・脂肪肝2件 ・アルコール性肝障害1件
・高コレステロール血症2件 ・高脂血症1件 ・高尿酸血症1件
・糖尿病1件 ・蛋白尿1件 ・尿潜血1件 ・前立腺肥大症2件
・白内障1件 ・その他の疾患93件 合計 138件

※検診により何らかの疾病が見つかる方は、約4割になります。

■人間ドックと巡回ドックの違いは■

人間ドックの良いところは

- ①検査内容が多く、充実しています「腹部エコー(潰瘍・胆石)、尿酸(痛風)肺機能他」
- ②当日に結果が分り、保健指導が得られます。
- ③X線撮影の大きさが10倍となり、より細かく診断できます。
- ④「夫婦の日」を設け、検診・保健指導など夫婦で受けられます。

■平成23年度から全地区対象に検診助成■

助成交付内容及び助成額と助成方法

助成内容	助成額(上限)	助成方法	備考
①人間ドック 厚生病院(遠軽・網走)	15,000円 ※基本料の半額助成	検診料から助成額を差し引いた額を指定口座より引き落とし	※JAに連絡が必要(早期予約をお勧めします。なお、一定人数がいれば送迎可:遠軽のみ)
その他病院	5,000円	助成金を指定口座に振り込み	※領収書の提出画必要
②巡回ドック 厚生病院(実施場所は後日案内致します)	7,500円 ※基本料の半額助成	検診料から助成額を差し引いた額を指定口座より引き落とし	※JAに連絡が必要
③脳ドック 単独検査のみ(病院指定なし)	5,000円	助成金を指定口座に振り込み	※領収書の提出画必要
④胃ガン検診(行政の検診のみ)	1,000円	助成金を指定口座に振り込み ※領収書の提出が必要	
⑤子宮ガン検診(頸部～行政の検診のみ)	1,000円	※指定病院からJAへ請求がある場合は、差額を指定口座より引き落とし	

(注)上記金額を上限とし、支払額が助成額未満であれば、その額とする。

□対象者⇒正組合員とその家族(農業従事者)

問い合わせ先⇒JAきたみらい 企画振興グループ
(電話 24-2145)



【材料：4人前】

鶏肉200g
塩小さじ1/2
こしょう少々
ブロッコリー150g
タマネギ1/2個
ニンジン1本
ジャガイモ2個
バター大さじ2
湯2カップ
トマトの水煮缶(カット)1缶(400g)
固形スープのもと2個
塩・こしょう各少々

鶏肉と野菜のトマトスープ

【エネルギー約263kcal(1人分)】

【作り方】

- ①鶏肉はひと口大に切り、塩、こしょうをする。
- ②タマネギは薄切り、ニンジン、ジャガイモは3mm厚さのいちょう切り、ブロッコリーは小房に分ける。
- ③鍋にバターを溶かし、①を強火で炒める。肉の色が変わったら、湯とスープのもと、トマトの水煮(缶の汁も)、②のブロッコリー以外の野菜を入れて、軟らかくなるまで煮る(約10分)。
- ④仕上がりの3分前にブロッコリーを入れて、塩、こしょうで調味する。

メモ

野菜を小さく切って、トマト味で煮たさっぱり味のスープは体に優しく、和、洋、中との相性も良いので、たっぷり作って作り置きして、2〜3日冷蔵庫で保存できます。鍋一つでできる、お手軽な一品です。



【材料：4人前】

鶏スパゲティ160g
塩小さじ2
キャベツ4〜5枚(200g)
ナバナ1束(150g)
オリーブ油大さじ2
赤トウガラシ1本
アンチョビー5枚
塩・こしょう各少々

春野菜のパスタ

【エネルギー約470kcal(1人分)】

【作り方】

- ①キャベツは4cm角に切る。ナバナは4〜5cm長さに切る。トウガラシは2つに切って種を取る。
- ②スパゲティをゆでる湯2Lを沸かし、塩を加えて、表示通りにゆでる。
- ③スパゲティのゆで上がり2分前にキャベツとナバナを加え、一緒にゆで、ざるに上げる。
- ④フライパンにオリーブ油、トウガラシ、アンチョビーを入れて弱火で熱し、アンチョビーをほぐしながら、約1分炒める。②と③を入れ、ざっと混ぜ、塩、こしょうで調味する。
(2人分が作りやすい量。4人分作るときは材料を倍にする。大きな鍋を使う)

メモ

野菜はホウレンソウ、小松菜、ブロッコリー、アスパラガス、ハクサイなどさまざまなものが利用できます。味の決め手はアンチョビー。これはカタクチイワシ(ひしこ)を塩漬にした後、熟成発酵させ、油に漬けたもの。イタリア料理によく使われます。フィレ・ロール・ペースト状のものが市販されています。

編集後記

- ・オホーツク管内の農村女性が集う研修大会・家の光大会が温根湯温泉で開かれ、取材で会場を訪れました。平成15年にJAきたみらいが誕生以来、毎回、会場に足を運んでいますが、その度に、感じるの「オホーツクの農村女性は、パワーに満ち溢れている」ことです。
- ・特に踊りや歌を披露するアトラクションは、「ものすごい」のひと言です。振り付け、衣装などを考え、さらに練習を積み重ねていく過程の中で、部員同士の絆を深め、本番当日は最高の演技を披露していました。今、女性部員の減少が課題となっていますが、是非、このパワーを生かして、女性部の諸活動や魅力などを積極的にアピールした部員勧誘を行い、「組織が発展していけば」と願いながら帰路を急ぎました。

(堀 仁志)

JAきたみらい概要

(平成24年2月20日現在)

- ・組合員数(正) 1,828人
- ・組合員数(准) 5,944人
- ・組合員戸数(正) 1,237戸
- ・貯金 103,197百万円
- ・貸出金 17,587百万円
- ・出資金 5,090百万円